

二八 國語に入つた葡萄牙語

葡萄牙人の始めて我が國に渡來したのは、西曆一五四二年暹羅國より支那に向つて航行中颶風に遭遇して我が國に漂着したアントニオ・ダ・モタ (Antonio da Mota) アントニオ・ペンショート (Antonio Pexote) フランシスコ・ザイモト (Francisco Zeimoto) の三人を以て嚆矢としよう。彼のピントー (Pinto) の種子島に漂着したのも、それから程遠からぬ時の事である。其の後ザウイール (Xavier) の如き有名なる人々が續々渡來し、耶蘇教を宣布し、我が國人の之を信する者も漸次増加して來た。秀吉は耶蘇教の弊害を認め、天正十五年(四紀五八七)禁教の令を發したが、同十八年印度の葡國總督が使を遣して通商の許可を求めたので、秀吉は之に答書を與へて宗教と貿易との區別を明かにすべきことを以てした。家康も秀吉の政策を踏襲して通商は許すとも、布教は之を禁せんと欲したが、事情があつて之を決行することが出来なかつた。秀忠は葡、西、蘭、英四國の貿易を長崎、平戸の二港に限つて許

可することとし、宣敎の取締をも嚴重にした。其の後正保四年(四紀二六四七)葡船再び長崎に來航したけれども、當時其の本據地たる媽港マカオの勢力が復た舊日の如くならず、日葡間の交通は爾後永く振はざるに至つた。

斯の如く我が國と葡萄牙國との交通は他の西洋諸國に先んじて行はれたが文物輸入の盛んなるに伴ひ、彼の國語の我が國語内に入り込んだものが少ない。今其の主なるものを次に掲げる。

(國語)

(葡萄牙語)

(國語)

(葡萄牙語)

アメンドウ	(壽星挑)	amendoa	アルヘイトウ	(有平糖)	alçolva
アンジョ	(天使)	anjo	イルマン	(兄弟)	irmão
ウニコール	(一角獸)	unicorn	エワンゼリョ	(福音)	evangelho
オーレヨ	(油)	oleo	カステラ	(柏底羅)	castella
カゾワルテウ	(食火鳥)	casuar	カツバ	(合羽)	capa
カナリヤ	(金絲鳥)	canario	カネキン	(金巾)	canequim
カピタン	(甲必丹)	capitão	カルサン	(輕衫)	calçao

カルタ	(歌留多)	carta	カルメラ	(菓子の名)	caramelo
カンテラ	(燈火の一種)	candeia	クリシタン	(切支丹)	christão
キリシト	(基督)	christ	ユンペイトウ	(金米糖)	cométiós
サフラン	(泊夫藍)	açafrao	サラサ	(更紗)	sarasa
ジバン	(襦袢)	gibão	シヤボン	(石鹼)	sabão
タバコ	(煙草)	tabaco	チャルメラ	(哨 吶)	charamela
チンタ	(珍 陀)	(vinho) tinto	デウス	(神)	deus, deos,
テレメンターナ	(丁列綿油)	terebintina	バツテラ	(短艇)	bateira
ハツハバツバ	(法 王)	papa	パテレン	(伴天連)	padre
パライン	(樂園)	paraíso	パン	(麵包)	pão
ビシヨボ	(僧 正)	bispo	ビードロ	(玻璃)	vidro
ピロード	(天鵝絨)	veludo	フラスコ	(硝子の瓶)	frasco
ヘーサラバカラ	(石叢) (作合)	pedra bezoar	ボタン	(鈕)	botão
ボーブラ	(南瓜)	abubora	マルメロ	(樞 梓)	marmelo

マシテールカ (猪 膏) manteiga

メス (小 刀) mes

メリヤス (莫大小) meias

ラシヤ (羅 紗) raxa, raixa

ラセーダ (羅背板、毛織物の一種) raxeta

ランセツタ (刃 針) lanceta